

区立図書館の現状・課題及びめざすべき方向性について（案）

第2次図書館ビジョンに基づく取組み

< 基本理念 > 「知と学びと文化の情報拠点」

< 基本方針 >

- 1 0歳児からの読書を支える図書館
- 2 大人の学びを豊かにする図書館
- 3 暮らしや仕事に役立つ図書館
- 4 世田谷への魅力を収集・発信する図書館
- 5 図書館ネットワークの構築
- 6 専門性と効率性を両立した運営体制の構築

第2期行動計画（H30～R3年度）の重点プロジェクト

中央図書館の機能拡充と図書館ネットワークの推進

中央図書館機能拡充やICタグ全館導入、学校図書館との連携強化などによる図書館ネットワークの推進を図る。

レファレンスサービスの拡充

高度なレファレンスに対応するため、人材育成や大学図書館等との連携に取り組む。

子どもの成長に応じた切れ目のない読書支援

幼児から青少年に至る成長過程における読書支援の充実を図る。

区民の知識や情報を生かした区民参画の推進

ボランティア等の区民参画を進め、知識や経験を活用し、交流の推進を図る

ニーズに応じた多様な運営体制の検討・推進

多様な運営形態による民間活力活用を計画的に推進する。

区立図書館における運営体制の現状と課題

（1）区職員による運営体制（直営）の現状

- ・区職員（図書館勤務）の高齢化（平均年齢50代後半、40代以下の職員は図書館経験が少ない。）
- ・非常勤の図書館嘱託員のノウハウを活用（約3割強が司書資格あり。勤務年数が長く、地域図書館の窓口業務など正規職員以上の活躍。）
- ・職員の専門性・館長のマネジメント力の育成強化が課題（職員の図書館業務経験が少なく、専門性（選書・レファレンスなど）維持が難しい。）

（2）図書館運営の民間活用の現状

- ・サービスの拡充（開館日・時間拡大、民間のアイデア・ノウハウ活用）
- ・民間事業者のマネジメント体制に課題（蔵書・レファレンス管理など）
- ・民間事業者の低い人材定着率、事業者交代によるリスクによる専門性（地域人材やスキル・ノウハウ）継承への懸念
- ・運営コスト（人件費）が低い（直営館との比較）

（3）図書館サービス（直営・民間活用共通）の現状

- ・様々な区民ニーズ・地域特性に応じた地域連携・協力の取組みが不足（地域資料収集・案内、地域の課題解決支援、連携イベントなど）

【世田谷区立図書館】

中央図書館（1館）・地域図書館（15館）
地域図書室（5室） 図書館カウンター（2施設）

< 課題 >

図書館サービスの専門性維持のための人材確保・育成（区職員のスキルアップ、事業者交代のリスク回避など）
公共性（選書等の蔵書管理、レファレンス管理など）継続・維持のための体制整備（中央図書館ガバナンス機能強化など）
多様化する区民ニーズ・地域特性に応じた地域活性化の取組みの推進（地域資料の充実、地域との連携強化など）

区の財源不足に対応するため、低コスト・柔軟な発想に基づく高いサービスによる運営をめざす（民間活力の活用）

区立図書館のめざすべき方向性

< 公共性・専門性維持のための人材・組織の整備 >

- ・区の公共性（蔵書・レファレンス管理など）の確保・充実の体制整備
- ・区職員の専門性（選書やレファレンスなどの知識・経験）の維持・育成
- ・地域館のマネジメント力、中央図書館のガバナンス機能を強化する組織・研修体制の整備
- ・民間事業者が施設運営で得たノウハウを継承できるような仕組み・体制づくり

< 多様化する図書館ニーズ等への対応 >

- ・地域・区民の様々な課題解決方法の実践（地域資料の充実や、まちづくり、医療・福祉、子育て支援のイベント・講座の実施など）
- ・施設の立地環境等に合わせた民間事業者の柔軟なアイデア・ノウハウの活用による図書館サービス（カフェや託児施設の運営など）
- ・地域との連携強化の取組み（町会・自治会、商店街といった地域団体と連携した子どもへの読み聞かせの取組みなど）

< 新たな図書館サービス等に柔軟に取り組むための仕組みづくり >

- ・これからの時代に求められる新たな図書館機能（電子書籍や宅配サービスといった非接触型サービスなど）について検討する仕組みづくり
- ・ボランティア等の区民参画を促し、区民や専門家の見識を図書館サービス等に取り込んでいく仕組みづくり

< 区職員による運営【直営】 >

- ・蔵書構成の把握や資料選定、利用者の課題解決など、区立図書館に必要な知識や技能を、区職員が図書館業務に携わることによって育成・継承していくことができる。
- ・職員の高齢化や経験不足により、人材育成と組織のマネジメント力強化が課題である。

< 窓口業務等一部委託 >

- ・図書の貸出・返却などの窓口業務や整理業務など、民間活用によって効率的な運営やサービス拡充を図ることができる。
- ・区職員が現場において図書館運営の全体を把握し事業者管理を行いながら、実際の本の状態や動きを基にした選書と除籍、事業企画や地域連携などに注力できる体制を確保することができる。
- ・区職員が現場で業務管理・指導を行っており（偽装請負に注意）委託契約期間満了に伴い事業者を変更した場合でも、安定した業務の継承が図りやすいが、運営ノウハウ等の継承には課題がある。

< 全部業務委託 >

- ・図書の貸出・返却などの窓口業務や整理業務など、民間活用によって効率的な運営やサービス拡充を図ることができる。
- ・委託契約期間満了に伴い事業者を変更する場合、その館の運営ノウハウ等の継承に課題がある。
- ・館長を置かない図書館カウンターなど、図書館サービスを補完する施設での導入に適している。

< 指定管理者制度 >

- ・施設の空間や地域資源を活用したイベント・事業、併設するカフェ等との一体的な運営など、自由度の高い運営が期待できる施設では、民間事業者の柔軟な発想や工夫による魅力が創出できる。
- ・指定管理期間満了に伴い事業者を変更する場合、その館の運営ノウハウ等の継承に課題がある。
- ・指定管理者の調達環境によらない選書や地域資料の確保、専門的なレファレンスに対する対応など、区立図書館全体として公共性を維持できる体制の確保が必要である。